

特色

●『新住岡夜晃選集』全五巻は、『住岡夜晃全集』全二〇巻（一九六一〜一九六六年）を底本に、新住岡夜晃選集編集委員会において文章を選別・編集。初期から晩年までの主要な著作を、五期に分けて年代順に収録した。

●親鸞・法然等の著作物の引用文は、原則として住岡夜晃が使用した島地大等編『聖典（浄土真宗）』（明治書院）を掲げたが、参考にも願寺出版社『浄土真宗聖典（註釈版第二版）』、真宗大谷派宗務所出版部『真宗聖典』の記載頁等も掲載した。

●住岡夜晃の生涯を紹介する「年譜」は、第五巻『仏法ひろまれ』の末尾に付けた。

価格

一四、〇〇〇円＋税（分売不可）

体裁

四六判、上製カバー装、
各巻平均約三〇〇頁

発売予定

二〇一八年一〇月中旬

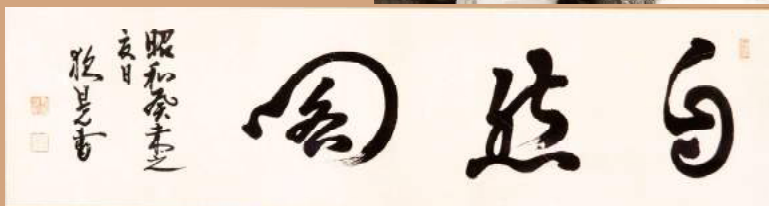
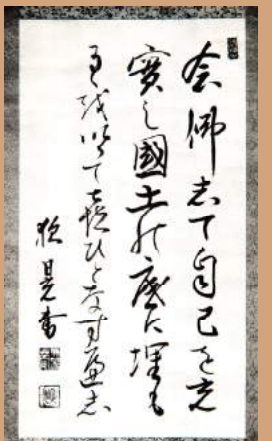
新住岡夜晃選集

全五巻

真に人の救われる道を求め、
多くの人々と歩む中から生み出された文章は、
現代もなお輝きを失うことはない。

2018年
10月中旬
発売予定

法藏館



【真宗光明団について】

真宗光明団について詳しく知りたい方は「真宗光明団のホームページ」をご覧ください。
ホームページ <https://koumyoudan.jp/>（年間の活動、全国の支部、住岡夜晃、施設等を掲載）

真宗光明団に直接お問い合わせされる場合は下記にご連絡ください。

〒733-0821 広島市西区庚午北三丁目2-22 真宗光明団本部
Tel. 082-271-5808



法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入 TEL:075-343-0458 FAX:075-371-0458
Homepage: <http://www.hozokan.co.jp> e-mail: info@hozokan.co.jp

刊行のことば

真宗光明団

このたび、真宗光明団創立百周年記念事業の一環として、『新住岡夜晃選集』（全五巻）を刊行いたします。

住岡夜晃（すみおか やこう・一八九五〜一九四九）は、明治から第二次世界大戦直後まで活動した宗教者です。住岡は今日、他の著名な宗教者と比べると世間にその名が知られてはおりません。彼は研究者ではなく、僧籍ももたず、広島の地で黙々と求道し、勉学し、悩む人の友となり、苦しむ人の傍らにありました。

住岡夜晃が創立した真宗光明団は、親鸞聖人が説かれた浄土真実の教えを聞いて歩む道場です。真宗光明団は、一九六一年（昭和三六）から一九六六年にわたり、住岡夜晃十三回忌を期して『住岡夜晃全集』（全二〇巻）を刊行いたしました。今回は、この全集の中から珠玉の文章を選んで新たに編纂いたします。

構成は、住岡夜晃が真宗光明団を創立して以来、亡くなるまでの三二年間を五期に分け、ほぼ年代順に選び編集しています。かつての全集も、さらにその一〇年後に刊行された『住岡夜晃選集』（山喜房佛書林）も今では絶版となっております。そのため、今回、真宗光明団創立百周年を期して新たに選集を編集し刊行する次第です。

真に人の救われる道を求め、多くの人々と歩む中から生み出された文章は、親鸞聖人が求め明らかにされた世界に深く真摯に尋ね入るものであり、大正から昭和にかけてのものでありながら、現代でも輝きを失うことはありません。生きる基盤を見失いがちな現代において、住岡夜晃が求め歩んだ世界に本選集を通して触れていただければ、まことに幸甚に存じます。是非とも多くの方々に読んで頂きたいと願っております。

『新住岡夜晃選集』推薦の辞

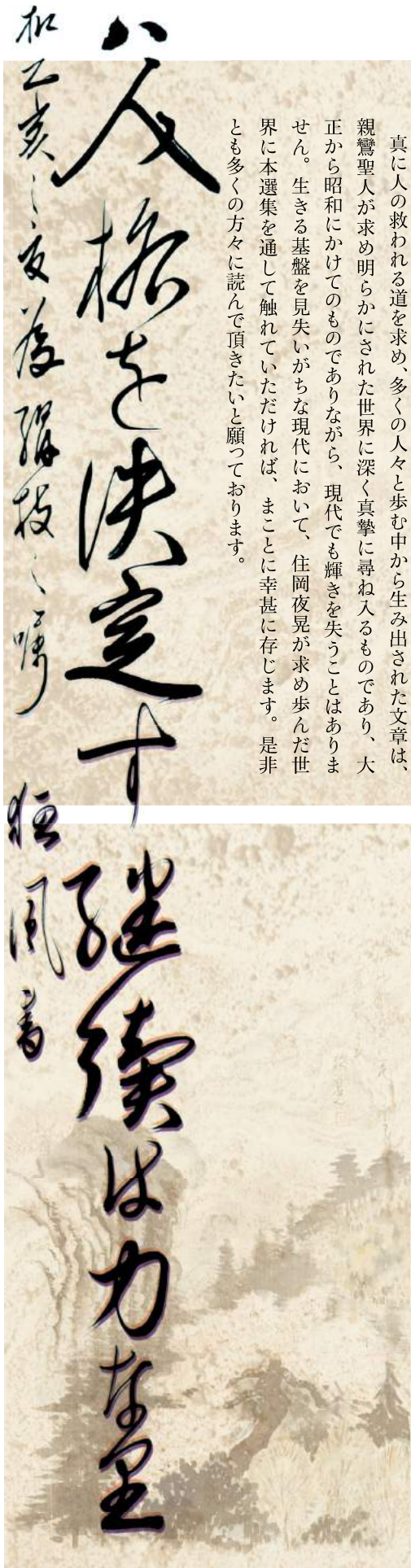
龍谷大学大学院実践真宗学研究科教授 医学博士 田畑正久

「継続は力なり」という言葉は人々によく使われるフレーズです。この言葉を最初に言われた人を調べてみると、この選集の著者、住岡夜晃師の「念願は人格を決定す、継続は力なり」にたどり着くようであります。

師は一生を伝統教団に属さず、所謂在野の求道者、宗教家として浄土真宗の土徳のある広島を中心に活動を展開されて、多くの念仏者を育てられました。そして師を中心にした僧伽は「真宗光明団」として現在も継続されています。蓮如上人の「専修正行の繁昌は遺弟の念力より成ず」の言葉のように、念仏の心は遺弟に引き継がれ、この度、百周年を迎えられています。

師の残された言葉や文章はすでに全集として公開されていますが、その中より選ばれた珠玉の言葉や文章が今回、選集として刊行されることになりました。真に救われる道を求め新しく出発する人、聞法を継続されている人々が、日々新たに求道生活を鼓舞され、念仏の道を歩む意欲と勇気をいただくことのできる本として編集されています。

私は毎日の勤行のとき、お経や正信偈を誦誦して、その後、師の現代語で表現された言葉を少しずついただし、一日の出發、そして生きる姿勢を正される貴重な場として大事にしています。



目次

第一巻『僧伽の誕生』

- 序章 おいたち
- 第一章 親しい若い皆様よ
- 第二章 生きんとする努力
- 第三章 清く生きようとする願い
- 第四章 人間性に立脚して
- 第五章 使命

第一巻は、一九一八年（大正七）〜一九二三年（大正一二）、二四〜二九歳の著作を収録。この五年間は小学校に勤務しながら光明団を立ち上げ、やがて法難にあい、辞職して、弘法のために故郷を出ていった激動の時代です。

第二巻『不退の歩み』

- 第一章 いかに生きるか
- 第二章 道を求める者の態度
- 第三章 親鸞聖人を偲ぶ
- 第四章 化城を出でて
- 第五章 回向のみ名
- 第六章 疑訪を縁として
- 第七章 試練の中で

第二巻は、一九二四年（大正一三）〜一九三〇年（昭和五）、三〇〜三六歳の著作を収録。この時期、僧籍がない者が仏法を語ることへの非難・中傷、長女や父の死など悲しい出来事が続きます。個人的苦悩を昇華して、真実に救われていく仏道を身をもって明らかにした文章が胸を打ちます。

第三巻『真実』

- 第一章 苦しむ一切の人々へ
- 第二章 我が慈父親鸞聖人
- 第三章 大乘仏教のこころ
- 第四章 浄土真実の宗教
- 第五章 念仏者の生活
- 第六章 住岡夜晃先生の歩み

第三巻は、一九三一年（昭和六）〜一九三五年（昭和一〇）、三七〜四一歳の著作を収録。一九三三年に光明団は一五周年を迎え、新本部を建設、「学仏道場」として本格的な学びへと力強く歩み出します。「如来本願の宗教」を尋ねる思索の日々の文章を取めます。

第四巻『一筋の道』

- 第一章 一筋の道
- 第二章 正法に忠実なれ
- 第三章 回向のみ名
- 第四章 信をとらぬによりて悪きぞ
- 第五章 如来本願の真意
- 第六章 御同朋と共に

第四巻は、一九三六年（昭和一一）〜一九四四年（昭和一九）、四二〜五〇歳の著作を収録。「汝は大法のために死ね」との心の声を聞いて、誤解や非難の中を歩んだ時期でもありました。生涯後半の充実の時期であり、聖教を深く丁寧にいたたく獅子吼の歩みが続けられます。

第五巻『仏法ひろまれ』

- 第一章 世の中安穩なれ
- 第二章 愚者のめざめ
- 第三章 念仏者は無碍の一道なり
- 第四章 仏心とは大慈悲これなり
- 第五章 仏法ひろまれ
- 終章 永遠の旅人

第五巻は、一九四五年（昭和二〇）〜一九四九年（昭和二四）、五一歳〜亡くなる迄の著作を収録。一九四〇年に廃刊となった『光明』誌を一九四八年に再刊。真に日本を救うのは正法だけである、念仏だけであるという決意が同朋へ次々と届けられました。



住岡夜晃

すみおか やこう 略歴

明治〜昭和時代を生きた真宗光明団の創始者

一八九五年（明治二八）、広島県山県郡原村大字中原（現、山県郡北広島町）生まれ。広島師範学校を卒業後、広島県内各地の小学校で教師を勤めた。一九一八年（大正七）、広島県安佐郡飯室村（当時）において近隣の若者に、狂風の名で「親しい若い皆様よ」を配布。一九一九年（大正八）機関誌『光明』第一号を発行して真宗光明団を創始した。一九三六年（昭和一一）、名を狂風から夜晃に改めた。

住岡夜晃は、仏教を深く研鑽したが、学者や単なる思想家とはならなかった。後に宗教運動のために教職を追われ宗教家として立つにいたったが、生涯、僧籍をもたなかった。そのため、厳しい圧迫を受け続けたが、けっしてそれに反発せず、対立せず、また妥協しなかった。「大法のごとく信じ、大法のごとく生き、いっさいに大法のごとく」を衷心の願いとして、終生、求道者として、教育者として歩んだ。一九四九年（昭和二四）、満五四歳で亡くなった。